

第3回

The 3rd Morioka International HAIKU Contest  
盛岡国際俳句大会



詠む心  
世界中から  
集めたい

本大会（講演・表彰）

2021.12月26日(日) 会場：岩手県民会館大ホール  
岩手県盛岡市内丸13-1

事前投句入選作品集

第三回盛岡国際俳句大会本大会  
令和三年十二月二十六日（日）  
岩手県民会館



盛岡国際俳句大会とは

日本文化を象徴する芸術である俳句は、今では「HAIKU」と呼ばれ、世界各地で親しまれているをご存知ですか。

盛岡国際俳句大会は二〇一九年の盛岡市市制施行一三〇周年を記念して始まった日本語と英語による俳句の大会です。

盛岡市は山に囲まれた風情ある街並みの中を、鮭が上る川が流れる、自然豊かで四季の彩りを感じられる街です。また、多くの偉大な先人を輩出した歴史と文化が薫る街でもあります。

そして俳句は、そうした自然や歴史を切り取り、五七五のたった十七文字で表現する最も身近な芸術なのです。

盛岡に住む人が、自分の街を見つめ直し、その魅力を再発見したり、盛岡を訪れた人が、その魅力を知り、好きになってくれたり。

この大会がそんなきっかけになってくれれば幸いです。

盛岡国際俳句大会実行委員会



ごあいさつ  
盛岡国際俳句大会実行委員会  
会長 谷藤裕明

本市は、四季の移ろいを身近に感じられるまちであり、また、俳人である山口青邨をはじめ、石川啄木や新渡戸稲造など、文学に造詣の深い先人が残した歴史文化が息づくまちであります。

盛岡国際俳句大会は、俳句を通して盛岡の魅力を再発見し、国内外に発信していただくことを目指して二〇一九年から始まった日本語と英語による俳句の大会です。第三回となる今大会は、昨年から続くコロナ禍においても、大変多くの方々から投句をいただいたところで、

これもひとえに、盛岡を、そして俳句を愛する皆様の想いと、選者の先生方をはじめとする大会関係者各位の御指導・御協力の賜物であり、皆様の御尽力に深く感謝を申し上げます。この大会が、盛岡市民の皆様には、自分の住むまちに誇りをもち愛着を深めていただくきっかけとなり、また、国内外の皆様には盛岡の魅力を知っていただくことで、盛岡のまちの良さに共感する盛岡ファンになっていただければ幸いに存じます。結びに、投句いただいた皆様をはじめ、関係各位の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、御挨拶いたします。

### 第三回盛岡国際俳句大会 投句規定

事前投句募集期間 令和三年八月一日〜十月十八日

#### ◆事前投句日本語部門

【一般の部 自由題（自由題材の句）】

選者 夏井いつき（俳句集団「いつき組」組長）

太田土男（草笛 代表）

高野ムツオ（小熊座 主宰）

賞 大会賞一作品、大賞二作品、特選六作品、

入選六十作品

【一般の部 盛岡題（盛岡にちなんだ題材の句）】

選者 白濱一羊（樹氷 主宰）

賞 盛岡市長賞一作品、特選二作品、入選二十作品

【ジュニアの部】

選者 白濱一羊（樹氷 主宰）

工藤玲音（樹氷 同人）

及川真梨子（小熊座 編集長）

賞 大会賞一作品、文京区長賞一作品、大賞一作品、

入選十五作品

#### ◆事前投句英語部門

選者 マイケル・ディラン・ウエルチ（俳人）

木内徹（俳人・元日本大学教授）

賞 大会賞一作品、特選五作品、入選十二作品

※ 漢字は新字体で統一しています。

日本語部門

【一般の部 自由題】

盛岡国際俳句大会賞

夏井いつき 選

花嫁のピアノを運ぶ枯野原

愛媛県

杉野祐子

【一般の部 盛岡題】

盛岡市長賞

白濱一羊 選

春の雲「もりおか」の字のやはらかく

盛岡市

工藤帽子

日本語部門

【ジュニアの部】

大会賞

白濱一羊 選

つまんない授業をよそに山笑う

二戸市

石輪咲桜

文京区長賞

工藤玲音 選

雪だるまふわふわの雪で作るんだ

盛岡市

平塚心温

日本語部門

【一般の部 自由題】

大賞

太田土男 選

母の襖褌持ち重りして冬夕焼

千葉県 五十月彩

大賞

高野ムツオ 選

噴水が止まり夜空の広ごれり

山形県 菊地みさ子

日本語部門

【ジュニアの部】

大賞

及川真梨子 選

石焼き芋わたしを包む空気かな

二戸市 小笠原偲留

日本語部門

【一般の部 自由題】

特選

夏井いつき 選

貝塚の貝の種類やあたたかし

東京都

若林杜紀子

特選

太田土男 選

妻へ薔薇買ひしは一度啄木忌

大阪府

今井文雄

特選

高野ムツオ 選

蟻の目の高さ偉大なものは何

神奈川県

杉山太郎

日本語部門

【一般の部 盛岡題】

特選

白濱一羊 選

あんバター手に新涼のキャンパスへ

花巻市 川村健

特選

夏井いつき 選

花よりも花の香させて諸煮ゆる

奥州市

高橋瞳

特選

太田土男 選

埋められし豚の命や曼珠沙華

宮城県

杜まお実

特選

高野ムツオ 選

雲の上さらに雲湧く夏帽子

盛岡市

村田素有

特選

白濱一羊 選

挽く沈黙蒸らす沈黙窓に雪

盛岡市

平貴文

【一般の部 自由題】

入選

夏井いつき 選

紙切りのこきこきと鳴る芭蕉の忌 紫波町 藤戸ちよ子

軍鑑の如迫り来る大白鳥 盛岡市 吉田由紀子

畑焚火煙草を焼べて立ち上がる 奥州市 阿部靖

夏空やいっそ丸坊主にするか 神奈川県 かねつき走流

熊蟬の掲揚塔を制覇せり 久慈市 成田不美

栗をむくテスト用紙の上でむく 青森県 新谷桜子

蛇穴に入る舌の根を仕舞ひ込み 千葉県 千葉信子

白菊の明るさほどの老後たれ 青森県 小野寺和子

菊褒めて集ふ曲屋守る会 盛岡市 菅野啓子

野の神話雪は沈黙より重し 盛岡市 大星雄三

陸橋にこぼれし初めの砂金めく 一関市 沖田誠子

初雪や上靴の裏は漆黒 宮城県 木村菜智

椽の実の落ちてかちかち山日和 北海道 森田佳代子

稗抜くや時報の歌は町の歌 奥州市 高橋瞳

年の暮ちひさき空をもつ老舗 神奈川県 巴里乃孀

玉葱腐るまん延防止の街裏 奥州市 鎌倉道彦

秋の暮鳥葬のこと問はれけり 奈良県 堀ノ内和夫

ひよんの実や今朝食ふものを今朝買ひに 滝沢市 三角尚子

初花やパンクを押して行くも良し 滝沢市 長生



【一般の部 自由題】

入選

太田土男 選

花かぼちゃ野良着となりし勝負服 奥州市 及川ふき子

ソプラノのピアスの揺れや星月夜 大阪府 岩田真弓

豪快に秋刀魚焼く人海育ち 久慈市 成田不美

手を繋ぐ雪が降っても温かい 岩手町 帷子颯翔

コンビニの紙のストロー風薫る 盛岡市 村井好子

夏空やいっそ丸坊主にするか 神奈川県 かねつき走流

曼珠沙華の角を曲がれと言はれけり 愛媛県 大賀康男

カレーパン旨し秋夕焼のベンチ 神奈川県 かねつき走流

新任の先生が来る雪解霽 大阪府 大島幸男

百までと煽て上げられ生身魂 盛岡市 小川幸子

オンライン会議終われば冬夕焼 大阪府 岩田真弓

狼の飛び出す絵本良夜かな 神奈川県 長浜よしこ

田草取り終へて少しの昼の酒 花巻市 上野節子

天高くよくよせず生きてゆく 大船渡市 三陸椿

鶏捌く腕おとろへずきりたんぼ 秋田県 神成石男

抽出にジュラ紀の石や雪の夜 愛媛県 杉野祐子

たまにしか鳴らぬ踏切葛の花 盛岡市 大信田宏子

ラジオからイブモンタンや林檎煮る 東京都 伊丹妙子

銀色のイーハトーヴや冬木立 盛岡市 八重樫美佳

母が打つ年越そばにぬぐだまる 一関市 里山の恵頓爺さん

【一般の部 自由題】

入選

高野ムツオ 選

龍笛の流星群を呼びにけり

栃木県 野々かさね

百日紅夕日にカムイヘチリコホ

奥州市 岩渕正力

封をして入れ忘れたる虫の声

千葉県 宮下奈緒

メーヴェなら君のもとまで天の川

花巻市 小笠原祐子

姫神の尖りたるさま新豆腐

盛岡市 工藤帽子

啄木忌田水みなぎり山映す

盛岡市 森義真

岩手なら銀河のしつぽつかめさう

盛岡市 伊藤蝦女

あの雲は啄木かしら拝み太郎

花巻市 熊の谷のまさる

鐘一打泰山木の花ひとつ

平泉町 岩渕洋子

馬居らぬ厩に積むや今年藁

紫波町 三繩美和子

新任の先生が来る雪解霽

大阪府 大島幸男

野葡萄の万象の色隠しをり

青森県 小泉静子

金箔にひろがる秋の水輪かな

神奈川県 三五一郎

虫の音や消えた町工場の灯り

奥州市 小野寺羽奈

びっくり箱を飛び出すやうや稲雀

神奈川県 杉江美枝

滝の前一礼をして歩荷過ぐ

東京都 若林杜紀子

眼裏の白砂青松天の川

盛岡市 畑育子

野の神話雪は沈黙より重し

盛岡市 大星雄三

新涼や水場に伏せる野菜かご

盛岡市 大信田宏子

搾乳機の音のみ響き今朝の雪

滝沢市 神玲子

日本語部門

【一般の部 盛岡題】

入選

白濱一羊 選

綿虫や不来方城の松のもと

滝沢市 田辺厚生

色変へぬ松にこまごま注意書

盛岡市 渡辺紀子

鬼の手の岩を飛び立つ天道虫

盛岡市 篠村恵美子

馬冷す中津川原の鈴の音

矢巾町 山のあなた

風爽か攻めて優しきわんこ蕎麦

大阪府 大島幸男

鈍行列車林檎の花のよく匂ふ

神奈川県 嶋村博吉

風花や雲滞る岩手山

大阪府 大島幸男

啄木の旧居にいつこよりの飛花

青森県 野村英利

犬もまた思索の時間牧閉す

盛岡市 内藤麻子

城壁に野面の温みあきつ飛ぶ

盛岡市 相馬定子

啄木の生命の森に色鳥来

盛岡市 鈴木睦子

原敬の墓所老鶯の遠音あり

盛岡市 濁池

川端の古き茶店や白楊

盛岡市 佐藤明彦

御城下のビルの谷間の清水かな

青森県 岩村多加雄

虫すだく殊に啄木歌碑あたり

盛岡市 永澤如月

二度泣きの橋を眼下に雁渡る

東京都 長沢成美

道造の踏みし愛宕路紅葉舞ふ

盛岡市 古酒たかし

秋夕焼一筆書きの南部富士

花巻市 多田聰子

朝顔やなはん言葉の城下町

八幡平市 佐々木一夫

鯨に小鳥来てゐる千手院

盛岡市 二階堂光江

日本語部門

【ジュニアの部】

入選

白濱一羊 選

啄木を思いて干し柿食べにけり

盛岡市 伊藤悠希

夏の浜波がサーサー話してる

盛岡市 梅原大海

深すぎてきつとどかない秋の空

盛岡市 高橋粋

雪の原兄の足跡踏んでいく

非公表

落ち葉と共に下っていく最上川

盛岡市 佐々木幹久

入選

工藤玲音 選

花火散る星をのこして来年も

盛岡市 秋屋寧々

梅雨明けやメトロノームと向かい合い

盛岡市 大志田祐希

夏の浜波がサーサー話してる

盛岡市 梅原大海

大会の僕の役目は団扇のみ

盛岡市 菊地律

聞かずとも伝わる思い出日焼け顔

盛岡市 佐藤淑

入選  
及川真梨子 選

いつの日か背伸びをしながら叱る母

盛岡市 後藤優花

音届く打ち上げ花火冷蔵庫

盛岡市 畑山真琴

生まれた色がないかと春探し

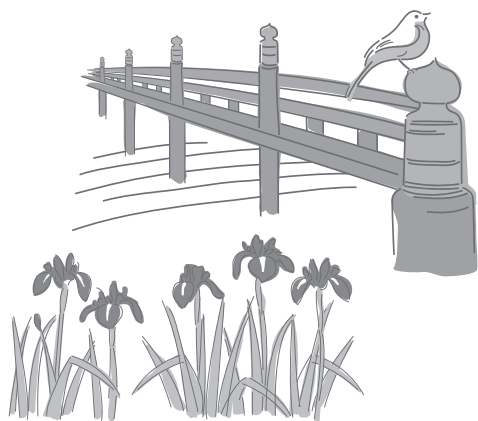
盛岡市 橋本真優

窓開けて見える田畑や春近し

盛岡市 関川湊央

秋雨や友の笑顔が映る窓

盛岡市 金根壮汰



# 事前投句英語部門

Judges: Michael Dylan Welch, Toru Kiuchi  
Japanese Translation: Toru Kiuchi  
選者：マイケル・ディラン・ウェルチ、木内徹  
邦訳：木内徹

## 【Grand Prize】 ビクトリア市長賞

マイケル・ディラン・ウェルチ 選

Mona Bedi インド

summer wedding  
her saree the colour  
of a red hibiscus

サマーウェディング  
彼女のサリーの色は  
赤いハイビスカスの色

The red hibiscus is associated with Kali, the Hindu goddess, and these flowers are sometimes given as worship offerings. To have a saree of this colour at a wedding suggests a religious reverence. Through its colour, even the saree joins the celebration of this joyous summer wedding.  
—Michael Dylan Welch

赤いハイビスカスは、ヒンドゥー教の女神カーリーと関係があり、この花を礼拝のお供え物にすることがあります。結婚式でこの色のサリーを着ることは、宗教的な崇拝を意味します。この色によって、サリーまでもがこの楽しい夏の結婚式のお祝いに参加しているのです。

—マイケル・ディラン・ウェルチ

【Special Selections】 特選 マイケル・ディラン・ウェルチ 選

Jonathan Aylett イギリス

evening pond  
a leaf falls  
onto the moon

夕方の池  
葉っぱが落ちる  
月のなかへ

Eduard TARA ルーマニア

the bounds  
of the infinity  
loon's call

境界は  
無限となる  
ハシビロコウの鳴き声

【Special Selections】 特選 木内徹 選

Barbara Strang ニュージーランド

deserted playground  
two cups on the table  
filled with sand

誰もいない遊び場  
テーブルの上の二つのカップ  
砂が入っている

Anthony Q. Rabang フィリピン

loud voices  
of what-ifs  
waterfall crashing

大きな声  
だったらどうなるんだの大声  
ほとばしる滝

John Barlow イギリス

autumn chill  
the bell of a fire engine  
from a distant carousel

秋の寒さ  
消防車のベルが  
遠くのメリーゴーランドから

## 【Honourable Mentions】 入選

Eduard TARA ルーマニア

falling leaf	落ち葉という
a piece of silence	一片の静寂が
changes its place	この場所を変化させる

Marion Clarke イギリス

winter moon ...	冬の月—
the soft glow	柔らかい光が
from a cottage window	小さな家の窓から

Vladislav Hristov ブルガリア

winter solstice	冬至 .....
the horse's eyelashes	馬のまつげが
hold the light	光を湛える

Sandra Simpson ニュージーランド

rolling the pebbles	小石を転がす
around in my hand -	私の手の中で—
magpie song	カササギの鳴き声

Helen Buckingham イギリス

dawn chill	夜明けの寒さ
the potter returns	陶芸家は
to her kiln	窯に戻る

Tomislav Sjekloća モンテネグロ

October dusk	10月の夕暮れ
my dog lets a stray	私の犬がほかの野良犬に
bring back the stick	棒きれを啜えて持ち帰らせる

Alan Summers イギリス

river moon	川のなかの月—
a guitarist's plectrum	光のなかに
in the gleam	ギタリストのギターピック

Owen Bullock オーストラリア

winter almost over	もうすぐ冬が終わる
you're not enlightened	あなたはわかっていないと
she says	彼女が言う

Ramesh Anand インド

old boathouse	古いボートハウス
the abundance	そこには豊かな
of silence	静寂がある

Barbara Strang ニュージーランド

first date	初デート
the scent of peaches	桃の香りがする
through the market	市場のなかから

Saumya Bansal インド

evening smog—	夕方のもっぐ—
mistaking the scarecrow	人間と間違えてしまう
for a human	案山子

Sandra St-Laurent カナダ

public park	公共の公園
shopping cart lady	ショッピングカートを押す女性が
collecting good mornings	あちらこちらでおはようと言う

## 盛岡市のシンボル(市の花・市の木・市の鳥)

---



### 盛岡市の花『カキツバタ』

さわやかな初夏(6月中旬頃)に紫色の花を咲かせます。古くから市内の各地に自生しており、山岸に群生しているカキツバタは、県の天然記念物に指定されています。アヤメ科。多年草。



### 盛岡市の木『カツラ』

山地に自生する落葉樹で、高さ30メートル近い大木となります。枝が垂れる「シダレカツラ」はこの地方特有の変種で、肴町と大ヶ生の瀧源寺、門のシダレカツラは国の天然記念物に指定されています。カツラ科。



### 盛岡市の鳥『セキレイ』

市街地を流れる中津川周辺などでよく見られる濃淡のコントラストが美しい鳥です。オスとメスの仲がよく水をたたくように尾を上下させて飛ぶ姿は、とてもスマートです。セキレイ科。

- 
- 主催 盛岡国際俳句大会実行委員会  
共催 盛岡市  
後援 岩手県 盛岡市教育委員会 盛岡市文化振興事業団 盛岡国際交流協会  
現代俳句協会 公益社団法人俳人協会 国際俳句交流協会  
日本伝統俳句協会 俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会  
岩手日報社 盛岡タイムス社 NHK盛岡放送局 IBC岩手放送  
テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手  
岩手ケーブルテレビジョン  
協力 岩手県俳句連盟